

令和7年度千葉県環境審議会企画政策部会における意見等への県の考え等について

1 千葉県地球温暖化対策実行計画 主な取組の令和6年度実績について（報告事項）

委員	意見等	県の考え等
亀山 委員	<p>全体的によくやっておられると思いました。再生可能エネルギーについて、太陽光が主となっていますが、風力発電について進捗はいかがでしょうか。全国的に洋上風力の機運が下がってしまっており、進捗がないかもしれませんが、潜在的可能性はあるため、引き続きご検討いただきたいと考えます。</p>	<p>陸上風力発電については、銚子市などに多数設置されております。設置に当たっては、年間を通した安定的な風量のある平坦な土地や地元との調整が必要となりますが、県内においては、設置に適した場所が少なくなっており、設備容量は近年横ばいとなっております。</p> <p>洋上風力発電については、本県の太平洋沿岸の沖合は風況が良いため、銚子市沖、いすみ市沖、九十九里沖、旭市沖の4つの海域で、洋上風力発電事業の導入を進めています。とりわけ銚子市沖については、三菱商事株式会社の撤退がありましたが、速やかな事業者の再公募に向けて、関係者との調整を行っているところです。洋上風力発電は、再生可能エネルギーの主力電源化に向けた切り札として期待されていることから、県としても、引き続きその導入を促進してまいります。</p>
木下 委員	<p>過年度の実績が示されていないので、当該年度の実績を評価できない。量的な評価で済む指標と、質を評価しなければ効果の程を判断できない（が量的実績しか示されていない）指標が混在している。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、過年度の実績を記載しました。今後も本資料がより分かりやすいものとなるよう努めてまいります。</p>
松隈 委員	<p>取組みの実績はわかるが、実績の件数等が適正（規模感）なのかわかりづらいつ感じました。目標に対してどうだったのか。昨年との増減など、取組みの実績数が適正かがわかるかと思いました。あくまで実績の報告と言うのであれば問題はないです。</p>	
杉田 委員	<p>全体として、非常によく取組みが進められていると思いました。以下、質問です。P.2次世代自動車導入・インフラの補助件数は少ないように見えますが、目標値は特になのでしょうか。</p>	<p>目標値の設定はありませんが、本事業は太陽光発電設備の設置に併せて充電設備等を設置することを要件としており、上限を22件と見込んでいます。今後も本事業の周知等に努めてまいります。</p>

2 千葉県の温室効果ガス排出量について（2021年度）（報告事項）

委員	意見等	県の考え等
亀山 委員	<p>2020年が新型コロナウイルスの影響を受けているため、その前年2019年と比較して考察しました。全国の排出量は2019年と比べて減っていますが、千葉県では増えており、特に産業部門と業務部門で増加率が高くなっています。業務部門は電力の割合が高いと推察されますが、このようになった理由について、今一度詳しく確認していただきたいと思えます。上記のとおり昨年度の温暖化対策はよくやっておられると評価でき、タイムラグがありますので、2022年以降の排出量が減りそうであれば問題ありませんが、ご確認をお願いいたします。</p>	<p>ご指摘のとおり、業務部門の二酸化炭素排出量の約3/4は電力由来であり、2021年度は2019年度と比較して電力使用量が増加したため、二酸化炭素排出量も増加しております。なお、電力使用量が増加した明確な理由については特定できておりませんが、国の二酸化炭素排出量推計では、東京都及び埼玉県においても、2021年度は2019年度と比較して業務部門の二酸化炭素排出量が増加しております。</p> <p>産業部門については、生産量の増加が主な要因と考えられ、生産に関連する工業プロセス部門の排出量も2019年度より増加しております。</p> <p>千葉県は、産業部門の構成比が全国平均と比べて大きいため、この影響をより強く受け、全体の二酸化炭素排出量も2019年度より増加したと考えられます。</p> <p>なお、国の二酸化炭素排出量推計では、千葉県の2022年度の排出量は減少に転じております。</p>
杉田 委員	<p>コロナ禍での停滞の反動が大きいため、2021年以降は2019年までの長期的な傾向に従い減少していく（と予測でき）ますでしょうか？</p>	<p>国の二酸化炭素排出量推計では、千葉県の2022年度の排出量は減少に転じております。</p>
藤倉 委員	<p>P.4、産業部門が多いのは京葉工業地帯の鉄鋼業等に起因すると思うが、産業部門ではどのような取組を行っているかの情報を県が把握することが望ましい。</p>	<p>京葉臨海コンビナート立地企業においては、鉄鋼業における水素の活用など、国のグリーンイノベーション基金も活用し、様々な取組が行われています。県としては、京葉臨海コンビナートにおけるカーボンニュートラルの実現に向けて、官民協議会を運営しており、コンビナートにおける連携を推進し、立地企業と情報共有を図りつつ、取組を進めてまいります。</p>
山崎 委員	<p>内容そのものへの意見ではありませんが、なぜ数年前（2021年）の統計値がまとめられているのでしょうか。もう少し即時性を持ったデータの公表と評価ができると良いと感じましたが、集計作業に時間が必要ということなのでしょうか。</p>	<p>使用している国の統計データについて、3年程度遅れて公表されることから、本県での公表も同時期となります。より早期に公表できるよう、今後も改善に向けて検討を進めてまいります。</p>

3 千葉県環境学習等行動計画に係る関連事業の実施状況について（報告事項）

委員	意見等	県の考え等
亀山 委員	<p>全体としてよくやっておられると思いましたが、一方で、学習の中で用いられているコンテンツについて、改善の余地があるかと思いました。例えば資料3-1のp.1最終パラグラフに書かれているように、「マイバッグをもっていく」などはすでに当たり前のことになっているにもかかわらず、今でも主要な環境配慮行動として掲げられているものを多く見かけます。日本全体での傾向として、「マイバッグをもっていく」「部屋の電気を消す」など細かい個人行動が主要な温暖化対策として示されることが多く、それ自体は間違いではないのですが、インパクトは小さい点が課題です。これらの行動に加えて、「環境に配慮する企業の製品を購入する」「環境問題について家族や友人と話す」「環境問題についてSNSで発信する」「選挙時には候補者の環境政策を確認する」など、より大きなインパクトにつながるものもリストに加えていただくと良いと思います。</p>	<p>御意見を参考に、環境学習等の事業において、より大きなインパクトにつながる行動を県民に対し促すものとなるよう事業担当課に周知の上で、県民に対し積極的に啓発を行うとともに、世論調査の例示項目についても検討してまいります。</p>
木下 委員	<p>「1 計画指標の達成状況」について、数値の推移だけではよくわからない。①②は世論調査の結果ということだが、何をもち「環境に配慮して行動している」と判断するのかなど基礎的な情報が欲しい。③の具体的な行事の内容は、「2 関連事業の実施状況」ならびにその抜粋元となった「関連事業取組実績一覧」を見ればわかるという理解でよろしいか。</p>	<p>指標としている世論調査の関連質問として、節電や食品ロス削減など環境に配慮した具体的な取組の実施状況についてお聞きしています。</p> <p>また、「1 計画指標の達成状況」③の数値は、「関連事業取組実績一覧」のうち、エコメッセちばや環境動画の配信など、環境生活部で継続的に実施している主な事業の参加者数の合計となっています。</p> <p>事業数が増えてきたことから、計上方法について今後見直しを考えております。</p>

<p>杉田 委員</p>	<p>多様な取り組みに非常に多くの県民が参加していて、目標に達してはいないようですが、全体としては良好な実施状況だと感じました。県が独自に認定する資格やプログラムなどがあると、参加意欲がより高まるのではないかと思います。</p>	<p>県では、大房岬自然公園での自然調査プログラムなどのほか、県民が調査団員となって身近な生物などについて発見情報を報告する「生命のにぎわい調査団」や、環境学習に関する体験活動や施設見学を行う事業者等を登録・公表する「ちば環境学習応援団」などを行っています。</p> <p>今後も引き続き、県民の活動への参加意欲が高まるような取組の実施に努めてまいります。</p>
<p>藤倉 委員</p>	<p>さまざまな取組をされており、結構だと思う。環境学習の内容として、「牛」（あるいは肉食）の環境負荷を取り上げて欲しい。牛からのメタン排出量は無視できない。国内産としても、飼料のフードマイレージが大きい。千葉県は畜産が盛んであるが、俎上に載せるべきテーマ。</p>	<p>家畜から排出される温室効果ガスの抑制に向けた取組として、飼料の給与方法に関する試験研究を検討していきたいと考えています。</p> <p>また、いただいた御意見を参考に、食なども含め、日常生活の中で生じている環境負荷について県民の皆様が理解を深めていけるよう、今後も環境学習の推進を図ってまいります。</p>